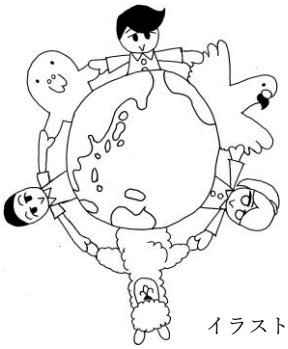
月桃（げっとう）通信 No24　2021 年３月 25 日

人類の罪と苦難

石原艶子



イラスト：大城旋律（孫）

☆あなたがたは神と富とに仕えることは出来ない。

（新約聖書　マタイ６：24）

☆ニューヨーク国連本部前、石の壁に刻まれている言葉
【彼等はその剣を鋤に打ち変え、その槍を鎌に打ち変え、
国と国とは剣を挙げて相攻めず、また重ねて戦を習はない。】

☆３月 11 日　東日本大震災、原発事故から 10 年の問い

あの日から 10 年、生々しい映像が何回もテレビに映し出される。この日私たちは何を思い何を感じたでしょうか。私は地球の爆発的な巨大なエネルギーの実体を見て言葉を失いました。何という無力、命のはかなさ、虫けら同然の小さな人間の存在を見たのです。一体、人間とは何者なのか、どこから来てどこへ行くのか。地球は何万年もの歴史の中で大爆発、生物絶滅など、人類の今だ知り得ない生きた星の営みを繰り返し、そして今があるのです。昔の詩人は聖書に記しています。**人の生涯は野の花のよう、野の花のように咲く。風がその上を吹けば消え失せ、生えていた所を知る者もなくなる。《詩篇 103:15～16》あなたは人を塵に返し、「人の子よ帰れ」と仰せになります。千年と言えども御目には昨日が今日へと移る夜の一時にすぎません。《詩篇 90：3～4》**　私たちは何万年もの人類の知らざる地球という星の営みの中のほんの一時を生かされている命であることを人は知っていたのです。神様は、「人よ地球の上に生きよ、私が創造した多様性豊かな動物達と共に、大地に咲く花々と共に命の限り助け合い、この大地の上に共存して幸せに生きよ」と語りかけて下さいました。そして今日まで大災害で多くの命が失くなることが繰り返されても人類を絶滅させることはなく、この地球に人類は増え続け繁栄し続けています。3,11 のあの日大津波に飲まれて逝った一人一人の尊い命たちのことを思います。海の彼方から、突然今日までの命を絶たれた悲しい一人一人の声が聞こえてくるようです。そして 10 年経た今、命たちは私に語りかけて下さいました。〝いのちある人と人とは助け合い、愛し合って共に人間として大切に生きて下さいね。そして原発だけはやめにして下さいね〟と。復興と言うならば原発事故と真正面から向き合い、故郷に帰れない人々の苦難と向き合い、被爆し健康被害に苦しむ一人一人と向き合い、誠意を持って救済することではないでしょうか。今の実体は欺瞞に満ちた真逆のことばかりではありませんか。反省も悔改めも謝罪もない日本という国の姿、人の命よりもお金（経済）至上主義の悲しい現実が見えてきます。もはや人間の能力では制御出来ない恐ろしい原発を廃止すること、核兵器禁止条約に加盟すること、武器は買わない、造らない、売らない、このことを亡くなられた２万人余の命の前で約束し実行することが今、最も求められていることだと私は信じます。

☆地球の呻き―――　海洋汚染・・・プラスチックごみはマイクロプラスチックとなって海水に溶け込み、魚、塩、海藻などを通して、また空気中を漂い野菜、果物、水、空気などを通して人間の体内にとり込まれています。海水温の上昇などにより今ある豊かなサンゴ礁は今世紀には絶滅すると学者は言ってい

ます。宇宙ゴミは増大の一途、宇宙ゴミ回収の技術まで研究されています。医学は進歩しても病気は増加の一途、コロナなどの新しいウイルスが次々と人類に襲いかかっています。北極圏の永久凍土は溶け出し巨大なホールが現れ、ヒマラヤの氷河も溶け出し村々に襲いかかっています。これらは唯の自然現象とは言えず、人類の果てしない欲望が生み出した結果であるのです。「罪の支払う報酬は死です」と聖書が語っている通りです。ある友人が問いかけました。「世界中が日本と同じ生活をしたとしたら地球（世界）はどれ位もちますか？」私は一年と答えましたが友人の答は三日でした。また日本は世界一食品ロスの多い国であって日本人が捨てる食物で現在世界中の飢えに苦しむ人々を救うことが出来ると言われています。3,11 から 10 年のこの日、そしてコロナ禍の中の今日、このままでは滅びしかないという危機感に襲われるのです。このままではいけない、今一人一人が亡き魂たちの声を聞いて目覚め、神を畏れ神の前にひれ伏す人間として変わっていかなくてはなりません。先の先の世代の人々のために。

《今の沖縄》

３月 15 日、うるま市長選挙の活動で早朝７：30 から交差点に立って手振り行動をしていると、頭上に戦闘機が青い空を切って爆音すさまじく次々と何機も飛んでいくのです。そして何と一日中続き、それが三日間も続きました。一体何事だろうか、異様な空気を感じました。ひどい爆音は私たちの精神を不安におとしめ健康までも蝕んでいきます。今沖縄はこのような状況が一層強まっています。米軍と自衛隊の合同訓練が始まっているのです。６月 23 日のあの日「静かな空を返して下さい」と叫んだ少女の声は空しく、戦後 76 年にして遠く忘れ去られてしまいました。このことの異常さに私は打ちのめされ「何故今、軍事力強化に走っているのか」と悲痛な思いで空を見上げています。この国は日米安保、日米同盟重視強化、アメリカの核の傘の下での安全保障を信じ、この道を進んでいます。反対する沖縄の民を黙らせ、犠牲にすることに何の痛みも感じないのです。沖縄の保守政治家や企業人の多くも、生き残る道は政府に従い補助金をたんまり頂いた方が得策と考え政府の顔色を見て忖度して動いています。すべてお金の力によって魂や心までもはぎ取られ、山も海も基地建設のために破壊され続けています。然し沖縄の人々は決してあの戦争の痛ましい事実を忘れてはいません。明治以来の歴史の中で日本政府と日本国民が沖縄に対してしてきたことを忘れてはいません。だからこそ、日本中の人達が無関心をやめて沖縄の今と向き合ってほしいと私は切に願うのです。

☆今も生きている沖縄のアイデンティティー

故、翁長元知事は、日本政府と対峙し、死の間際までも辺野古に基地を創らせないために闘いぬかれて逝ってしまわれました。翁長さんの残された言葉から―――「沖縄以外の都道府県で日米両政府という権力と戦ってきたところはありますか、ないでしょう。こんなにも長く戦ってきた沖縄に対して、お前ら勝てるのか？という視点で見るから政治は何も変らない。堕落の政治だ。」「他の都道府県では知事や市長が反対しただけで引いてしまう。沖縄の人々の自己決定権や人権はないがしろにされている。」「恒久的な基地を何が何でも押し付けるのだという政府の最後通牒だ。」―――（石井国土交通相が埋め立て承認取り消しの効力を停止すると発表）国が知事に代わって取り消しを是正する代執行の手続きに着手。政府は２日後に埋め立て工事に着手した。そしてあの日（2018 年 12 月 14 日）より埋め立て工事は止まることはありません。塩川港、安和港からの土砂搬出は本部の山々を切り崩し、無惨な姿に変えてしまいました。辺野古の海では 10 メートルものかさ上げ工事が始っています。海に 10 メートルもの壁が作られて

ホープスポットの海の生態系は完全に破壊されてしまうでしょう。今既に多くの変化が生じています。故翁長元知事、太田昌秀元知事さんの無念の心が、今新たに伝わってきて辛く悲しい気持ちになります。

☆埋め立ての現場から―――　２年半で 1.6 倍に上り 410 億円、入札径ず増額を繰り返している。場当たり的で無限増の恐れあり。普天間の辺野古移設が至上命令となり金額がいくらかかるのか、工期が何年かかるのかも考慮されずタブーになっている。役人にも虚無感があるのでは？と報じられています。恐ろしいことに誰も責任を負う者がいないのです。公共工事の負の特徴を象徴的に表しています。何度も私は言い続けていることは、日本国民が無関心を止めて沖縄に目を向けて、税金をこんなことに使ってもいいのか、と声を上げて欲しいと願います。日本の民意が辺野古中止へと高まることによってしか辺野古新基地を中止することは出来ません。マスコミからも見放されて、沖縄が報じられない現実こそが日本人の問題なのです。自分とは関係ない、政府に逆らっても仕方ないと他人事、自分の利益中心、強者、強運にあやかる御利益信仰、拝金主義、偽りの繁栄と慰め、このあり様が差別を生み、格差社会をより深刻にしているのです。

☆米軍海兵隊と自衛隊との共同訓練―――　今、日本はこのコロナ禍の中、原発事故後の多くの難問を抱える中にありながら、自衛隊を軍隊として強化しています。二月、金武町のブルービーチにて日米の共同訓練があるというので行ってみました。訓練の現場は見ることは出来ませんでしたが物々しい雰囲気を感じました。銃を持った海兵隊員が写真を撮るなと威嚇しに目前に現れたりして恐怖を感じる場面もありました。金武町の最高に美しい浜が海兵隊の訓練用基地として接収され、住民は一歩たりとも入れないことの理不尽さに怒りがこみ上げてきました。この浜は沖縄の住民のものではないのですか。米軍基地が失くなって、この浜で住民が自由に楽しめる日が早く来ることを夢に見て切に願っています。

〇自衛隊がアメリカの広大な基地でさまざまな日米共同軍事訓練をしていることを知っていますか。何故、自衛隊を軍隊として訓練強化していると思いますか。米中新冷戦に備え全面戦争になったら核戦争、人類破滅の危機となることを避けるために日本軍（自衛隊）を前面に出して局地戦争の範囲に納めおきたいがためだと友人が話してくれました。日米安保とはアメリカに守ってもらうのではなくアメリカのために利用されることに他なりません。安倍長期政権の下で、日本が戦争できる国として天皇制による過去の歩みへと回帰していることを今、国民は危機感を持って気付かなくてはなりません。何故ここまで軍国化に走るのかその理由の根深さに気付かなくてはなりません。資本主義のマネーに踊らされ、アメリカの軍需産業を助け、日本も軍需産業に手を染め深みに入り込んでいるのです。憲法９条の非戦の誓いも空しく、国連の石の壁に刻まれた非戦の祈りも空しく消え去り、滅びの道へと入ってしまいました。こうなってしまった原因は日本人が反省、悔改め、謝罪が全く出来ない傲慢で誇り高く真の神を畏れない民族であるからです。ひれ臥すべき神を持たない民族の姿を悲しく思い、ドイツとの違いを考えさせられます。

☆南部の土砂を辺野古埋め立てに使わせない戦い―――　沖縄戦の激戦地であった南部の惨状を想像できる者だったら、絶対に生々しい命の血が染み込み遺骨が混じっているこの南部の土砂を、戦争のための辺野古新基地に使うことは決して許すことは出来ないはずです。何故、この国の権力者達はこのようなことを平気で考えられるのでしょうか。このことひとつを取っても戦後 76 年にして沖縄の痛みを全く知らず、想像することすら出来ない感性も良心も失くした政治家ばかりで、今もこうした琉球処分が続いていることに愕然とします。沖縄戦遺骨収集ボランティアの具志堅隆松さんの県庁前でのハンストに合わせ

て、私たち心ある県民は立ち上りました。これは「良心が許さない」闘いです。遺骨はアメリカ兵、韓国の人、本土の人などまだ多く残存しています。県議会も、断念意見書提出へと動き始めました。各市町村議会も反対決議がなされ始めています。沖縄県民の「良心を守る」闘いの声が日本政府を動かし中止となるように私たちは心と力を合せ、祈りつつ闘っています。

☆非暴力の闘いとは　言葉の暴力について

言葉は人を生かし、また人を殺すことも出来る恐るべき力を持っている。聖書は**「初めに言（ことば）があった。言は神と共にあった。言は神であった。」（ヨハネ伝 1:1）**と記している。言葉によって自死に追いやられた若者たちのことが痛ましい事として報じられている。その言葉とは、否定であり人としての尊厳を奪い、生きる価値なき者として断定する絶望的な言葉、そこには愛は全くない。その言葉を何度となく浴びたとしたら人は心を病み、自死へと追いつめられていく。私たち平和運動の中に、このような悪魔的な言葉を絶対に持ち込んではならないと私は思う。伊江島のガンジーなる故阿波根昌鴻さんの言葉が心に深く染み入ってくる。

〇平和をのぞむ運動家は、生活の場でも平和でなければ本当の平和は実現しない。

〇わしらの闘いの基本は何よりも相手のことを考える闘いということであった。

〇人間学ばなければ何も分かりませんよ。

〇物が平等に分配されても感謝の心がなくては争いはなくならない。心が正しくても国の政治に無知では平和な社会をつくることは難しい。広い知識があっても心が正しくないと真の平和の実現はないと考えます。

〇一人でも最後まで耐えるなら勝利は絶対確実である。

機動隊の若者達、警察官、警備員、防衛局職員、アメリカ兵、地元に暮す人々、ダンプの運転手、みんなみんな同じ人間、考えも立場も違うけれど心を持った尊い一人一人に違いない。**「平和をつくり出す者は幸いである。その人は神の子と呼ばれる」**

「神よ、私たち人間を憐れんで下さい、正しい道へ導いて下さい」と祈ることしか出来ないわたしが今ここにいます。香港で、ビルマ（ミャンマー）で闘っている正しい人達を神が助け、その一人一人の存在とその闘いを平和な世の礎として下さることを祈ります。

《お知らせ》

うつぐみの会着物リサイクルマスクを購入支援して頂いた皆様に深く感謝申し上げます。お金を振り込んで下さった方々の中に名前のみで、住所やお金の内容が分からない方々がおります。振り込まれる時は必ずお知らせ下さいませ。在庫沢山あり。リサイクル着物求めています。

〇「あみの会」の誕生

私たちうるまの女性仲間で、辺野古基金ボランティア**<u>糸リサイクル作品</u>**の販売を始めました。アクリルタワシやルームシューズ、首当てスカーフなどです。今後新作品次々登場予定。リサイクル糸求めています。関心ある方は連絡下さい。

〒904－1115　うるま市石川伊波 1180－5　石原艶子

℡：098－964－3237　　携帯：090－4471－1942

振込先：ゆうちょ銀行　記号：12260　番号：12650271　イシハラツヤコ